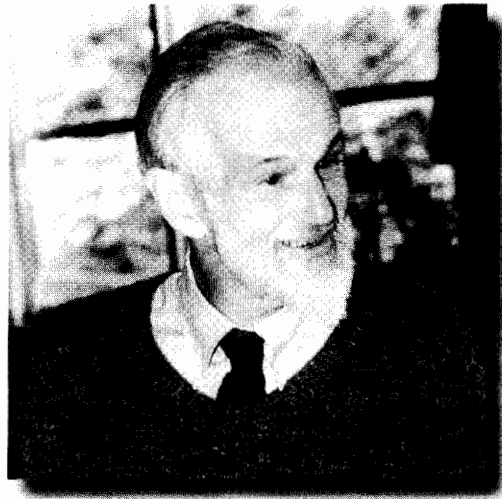
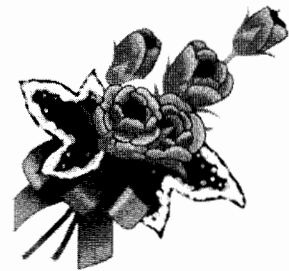


1973年 南山短期大学人間関係科
創立時初代学科長。
1982年 退職、南山短期大学名誉
教授。
教育者として、牧師として「愛の
働きのために」人生を全うされま
した。



リチャード・A・メリット先生
(1915-2006)



「メリットさん、どうしていますか？」と、問いかけると、「あー、元気になっているよ。仙丈ヶ岳（南アルプス）が真っ白になってきらきら輝いているよ。浦（長野県長谷村）は冬は寒いけれど、自然は最高だね…」と、すぐに返事が返ってくるような感じがして、とても天国に召されたとは思えません。実感がわいてきません。皆さんいかがでしょうか。

メリットさんと関わった数知れぬほどの人たち、それぞれに、消すことが出来ない様々な思い出やエピソードがあり、それらが私たちを支えてくれています。私も皆さん同様、沢山の支えになる思い出をもっていますが、その一つを紹介させていただきます。それは、私とメリットさんとの出会いであり、そのおかげで今の私があり、ずっと私を支えてくれている

ものなのです。私が始めて、Tグループにメンバーとして参加した時のことです。私のグループのトレーナーがメリットさんだったのです。なんだか風変わりな外国人だなと思ったのが第一印象でした。今から37年ぐらゐ前の6月のこと。所は静岡県御殿場の東山荘でした。私のグループは、恐らく、トレーナーも予測できないような出来事が、次から次へと起こり、苦しみの連続でした。最終のセッションも完全な沈黙で終わってしまいました。Tグループに大きい期待を持って参加した私などは、何だこれはという思いで怒りに震えるほどでした。他人の故にしていたのです（後になって、その場は気づき学びの宝庫であったことに気づく

のですが。）私は、その時すでに、メリットさんもスタッフの一人であるJICE（立教大学キリスト教教育研究所）に研究員として、9月からお世話になることが決まっていました。それで、帰る前にメリットさんに挨拶をしておかなくてはと思い、スタッフルームを訪ねました。今後よろしくお願ひしますと、ひと言言ってさようならするつもりで軽い気持ちでした。廊下に出てこられたメリットさんは、私の顔を見るなり、いきなり右手を斜め後ろに高々と振り上げられたのです。たたかれる、何も悪いことをしていないのにと考えた瞬間でした、その手が勢よく私の目の前に振り下ろされてきたのです。一瞬、私の手も何かに

突き動かされるように前に出ていました。目の前で、火花が散ったような瞬間でした。お互いに相手の目を見つめながら、ひと言の言

「あなたのそばに、今も、メリットさん」

星野 欣生

葉もなく、じっと握り合っていました。その時のメリットさんの手のひらの“ぬくもり”が、今も私のでのひらにそのまま刻み付けられているように、ありありと残っています。この“ぬくもり”こそが、メリットさんその人であり、ずっと私を支えてくれたものです。人間関係トレーニングの世界に生きている私にとって、その時のメリットさんの手のひらの“ぬくもり”はファシリテーターの原点そのものです。いつも帰っていける場所なのです。

私たちの心に、今も、いつも寄り添って存在してくださっている、メリットさん、ありがとう。

これからも、いつまでもよろしく！

人間関係科学科長時代



11期 授業風景より

メリット先生、
タネまき、ありがとう。



11期 生活合宿

心にタネをまいたメリットさん

三十数年前、白いおひげの男性が、ニンカンという野原で、歌いながら小さなタネをまき始めました。

背の高いその人の名はメリットさん。

やがて、タネは一つ一ついろんな芽をふいて、空へ向かって伸びはじめました。

メリットさんは、嬉しそうに微笑んで、一本一本の緑の木にほんとうに大切なものや、ときどきはリングやサラダやビスケットもあげたりして、毎日楽しげに歌いながら、木の世話やタネまきを続けました。

そんな年月を長く過ごして、やがてタネをまく場所は、海辺の村や、街の小さな教会や、いろんなどころに広がっていきました。

そんなメリットさんが、ようやく全てのタネをまき終えて、ほっとした顔で天のふるさとに帰っていったのは、昨年秋のこと。



パイプを煙らすメリット先生

今、ニンカンの野原はこんもりと茂ったにぎやかな森になっています。

いろんな木が思い思いに枝を伸ばし、葉や花をつけて、それぞれの場所や季節を楽しんでいるのです。

すっかり大人になった木の中には、自ら実を落として、新たなタネまきをするものも多く、森はますますにぎやかです。

メリットさんから始まった、そんな森のお話は、まだまだまだまだ続きます。



ハリウッド男優もビックリ!

メリット先生の思い出は、覗き込むような暖かい眼差し、がっしりした握手、びっくりするようなものが入ったスープ、Tグループへの想い、学生への信頼、など沢山ありますが、一番最初の学びは「マヒト君、それを教えることは学生の成長にとってどういう意味がありますか？」という質問をされたときです。大学院を出て南短に赴任した2年目のことでした。基礎論の授業内容について提案をしたときです。大学の授業は“学問”を教えるところと思っていたので、“学生の成長”なんて考えた事ありませんでした。この言葉で私はニンカンの精神を知り、授業が私にとって楽しい場所になったことは言うまでもありません。

山口 真人 先生



5期



6期 卒業合宿

学生の思いは熱く、深く、そして重い!

◆メリット先生が愛されたもの◆

グレープフルーツ、胚芽パン、
はちみつ、コーヒー、アップルパイ、マクビティビスケット
アイスクリーム、子どもたち、ハンドベルの音色
クラシック音楽、聖歌、笑顔、自然…
色々あるね。そして…『自由』
古い伝統や慣習よりも、「今、ここで」の最善の方法やスタイルを
大切にされました…。
先生の思い出は本当に尽きることがありません。
どうぞ、皆さんの心の中にある思い出を加えて、補って下さい。



20代のグラバア俊子先生と「かわいい! グラちゃん…!」

昨年9月6日に91歳でお亡くなりになったメリット先生の逝去記念礼拝があり、南山の先生はじめ人間関係科の卒業生も多数参列されました。南山短大OGメリットベルリンガーズのハンドベルの音色と共に、メリット先生の温かいお人柄に触れる機会を与えられました。

ニンカン・ネットのHPの「おたより6期」に詳細がアップされていますので、ご覧下さい。

2006.10.21 日本聖公会中部教区名古屋聖マタイ教会にて



ニンカン・ネット企画 三二講座

冬の講座

「ゲシュタルト・アプローチ」

【講師】川浦 佐知子先生(7期)



川浦先生は、南短を卒業して4年間名古屋で就職された後、心理療法を学ぶために上京された。カウンセリングとゲシュタルト療法を学んだ後、アメリカへ留学し、1998年から南山学園に在籍されている。南短では1998年から2001年まで教え、現在南山大学心理人間学科に所属されている。

ゲシュタルトとはドイツ語で「全体」という意味であり、ゲシュタルト療法はフィリッツ・パールズが提唱し「今ここでの気づき」に焦点を当てるものである。今どんな気持ちなのか、何に気づいているのかが大切になり、気づきの例として、先生は自身の中耳炎の体験を示された。

参加者全員の自己紹介後、実習「エンプティ・チェア」の説明があった。2人1組になって椅子を3脚用意し、2脚を向かい合わせる。1人が自分と誰かの2役のやりとりをして、もう1人がそれを見守る。2役やる人は「私に向かって話す」「私自身になって答える」という場面を5分

2006年に冬(2/25)、春(5/20)、秋(9/9)の講座を開催しました。

その内容をまとめましたのでご紹介します。

間演ずる。見守る人は後で「今話している内容と表現の違いなど、気づいた事」を伝え、これを交代で行う。先生は例として、自分とお母さんとのやりとりを紹介された。実習の目的は、自分ではないと思っていたものを取り込み、自分自身の土壌を広くしていくことにある。

実習は和気あいあいとした中で始められ、終了後参加者全員が各々の感想を述べ、それに対し先生が気づいた事を言われた。「(参加者の感想には) 共感できない声なかった。今日は逆にエネルギーをもらった」という言葉で締めくくられた。



参加者の『ふりかえり』

- ・「ゲシュタルトアプローチ」何なのか、前々からとても興味がありました。今日、聞いて少しわかりました。ヨカッタです。川浦先生が卒業生であるということでアットホームな雰囲気の良い講座でした。
- ・エンプティチェア…実習での気づき、自分の今がみえないのもあったけれど、他のペアのふりかえりを聞いて、全部にうんうんとうなずけた。いろんなことに共感できる私がいて、どれを選択するのかなのかな。迷ったら、少し離れて、客観的になることの大切さ。楽しかった！心と体と声(気持ち?)が一体になったら…きっと自分らしさを見つけられるかも。
- ・自分が見失っているものが、あるということに気がきました。それが何なのかをさがしたいと思います。さがさなくてはいけないと思わずに…、「ねばならない」とあまり思わずに…。
- ・ゲシュタルトアプローチには関心があっても、自分としてまだ時期じゃないとここ数年思っていました。少し前から「やってみようかな」という気持ちになってきていた矢先のこの講座でした。川浦先生の語り口、お話の内容など、講師というよりも先輩という感覚が強かったせいか、穏やかにいることができました。また、次に学ぶときがやってくるのを待つ気持ちが大きくなったような気がします。

- ・1つのことが焦点として図になったり、次の瞬間に背景となっていくという考え方にとても新鮮な気持ちになった。その瞬間瞬間に出会い、選んでいくという視点も知り行動していく上でのヒントにもなった。参加社の動機や、今かかっている問題、気になっている事を皆で共有できたことは、大きな収穫です。型にはまって行動している(ルーティーン)ところから、新しい行動に移すヒントをもらいました。エンプティチェアは、2人で共感しあえました。
- ・2時間があっという間に過ぎたという印象です。多くの方のお話が聞けたこともとても良い刺激となりました。ゲシュタルトアプローチの知識についても少し深めたかったという気持ちもありますが、それはinter net や書籍で勉強することにします。エンプティチェアは自分にあらたな気づきがありとても良い経験でした。
- ・タイトルの「ゲシュタルトアプローチ」から講座内容がみえなくて、前日になってインターネットで調べてみたら「今、ここ」「気づき」とあり、ワクワク…。卒業生から南山の先生になられていることも興味がありました。少人数だったおかげで参加者全員の話が聴けてよかったです。自分の思っていることを声に出して自分で聞いてみる作業、それを見守ってくれるパートナーという図でしたが、単純だけど…、みえてくるものがあり、そんな時間はやっぱり大事だと感じる2時間でした。

冬の講座

「コンセンサスの体験より」

【講師】杉山 郁子さん(6期)



私は、南短時代から「いろいろ言えない人間がいることをわかって」と言われ、今でもそのことは考えることができる。気になる事があれば、自分の中で持って歩いてみるというのが自分の信条であり、その間にさまざまな変化が起こりその中で気になることを活かしていくこともできる。肯定的自己概念とは「自分は〇〇ができる」というものではなく、ありのままの存在を認めていくことである。

今回は価値観に焦点を当てコンセンサスの実習を試みた。
(実習の説明、開始、終了)
(各グループの順位発表)

価値観とは、自分の判断の基準になる物で、一人一人の経験や人生観や「私にとってはこれが大事」という思いからつくられている。それは「判断のものさし」とも言い換えることができるが、それぞれの人がたくさん種類の「ものさし」を持っている。人はその時に応じて「これを使おう」と適当な「ものさし」を持って来る。人それぞれが自分にとって適切な「ものさし」を持ってきたとき、集団の中ではどうやって合わせていくのか、お互いどれだけ理解しあえていくのかを問われる。各々がどんな「ものさし」

し」を使って、どんな感覚でものを言っているかを理解しあっていくのだ。自分自身の「ものさし」を捨てて、相手に合わせる必要はなく、自分がどんな「ものさし」を持っているかを自覚・認識し、そして相手とはどのように「ものさし」が違っているのかに気づいていく。

女性は家庭に入るとさまざまなことにとらわれ、自分を一番に考えられない。しかし色々な状況の中で、こうしようと思ったのは自分だという意識が持てることは大切だと思う。自分で決めたことを明確に意識する事で、自分を自由にできる。役割に縛られるのではなく、役割をやっていく人間になれる。自分を振り返る時、時には「私って何を基準にものを考えているのか」を思ってみるのもいい。



参加者の『ふりかえり』

- ・コンセンサス実習をのびのび(?)体験する中で、自分が気にしている自分のあり様を、人は私らしさとしてとらえてくれたり、よい点としてとらえてくれたことが意外だったし、ありがたかった。自分の課題の出口としてヒントにしていきたいと思う。
- ・毎日必要なのはコンセンサスだったのか。と当たり前に思いました。人間生っぽいと思うけど(思っていないか…)プロセスを大切にすることが当たり前で、結論・結果を時間内に出さなくてはいけないということ最大のミッションをおろそかにしていたかもしれません。何気に参加したミニ講座でおもいきり気づきとかしちゃいました。マヒする日々素敵なりハビリテーション。
- ・誰かが誰かを説得するのではなくそれぞれ納得して決めていく…日々一つのことを成すために必要なコンセンサス。どのような基準かを考え合意する作業が…身近な課題で面白かった。時間を気にせず結論も出してみたかった。
- ・「自己肯定力」という言葉に今まで「自分を認められる、いいところも嫌なところも、これが私」と言っていた言葉がピッタリおさまる単語だと思った。コンセンサス実習は話しやすく聴きやすい雰囲気グループで自分の考えを心おきなく言え、気分よかったです。時間に限りがあったのもあるけれど今度はもう少しじっくりグループメンバーの考えを聴くことを意識したいと思った。

- ・何回目かの実習でしたが今日はまたいつもと違う感じで実習に関われました。私の新しい(というか今まであまり意識したことないような)感覚を味わうことができました。
- ・実習を通して自分の「話す・聞く」場面の立場、進め方がよくわかりました。たくさん「ものさし」を持つこと、何を基準に物を考えているかの大切さを学びました。
- ・楽しかった。ガーコさんの話は、親しみやすく聞きやすく入り込みやすい。コンセンサスもいい感じで話し合えました。
- ・私はとても“自分”のことを見ているタイプだと気付きました。質問4の答えが見つけれられない。誰がどう影響を与えていたかということより自分の思いをどう伝えるかということが重点になっていたように思う。「受け入れる」ということがうまくいかないのかも? 頑固すぎるのかも…ということに気付きました。
- ・何回目かの講座体験ですが、今までとは又一味違った体験で、気づき→選択→責任・自由の重さを感じ、納得できました。語彙が少なく感性がうまく書けませんが、自身を認め、納得する事を大事にしたいと思います。
- ・はじめて参加しましたがすんなりと話し合いに入れて貴重な体験でした。皆さん慣れた方ばかりで自分の言いたいこともしっかり伝えることができました。また都合がつけば是非参加したいです。

春の講座

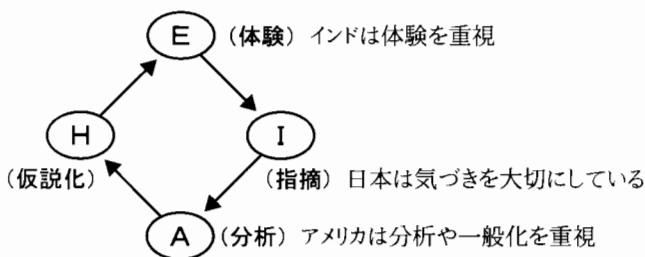
「インド・アメリカ留学から
戻りました！」

【講師】中村 和彦先生



中村先生は2004年10月から2005年3月までインドに、いったん帰国後すぐ2006年3月までアメリカに、組織開発の勉強のため留学されていました。和気あいあいとした雰囲気の中、インド・アメリカで経験された生活面での楽しい話も交えながら、日本とインド・アメリカのTグループの違いなど、とても興味深いお話をいただきました。

〈Tグループを用いたトレーニングでの「EIAHE」サイクル上の強調点〉



日本の体験学習のモデルは南山短大発のものが多く、EIAHE'のモデルも主に南短人関の生まれです。

Tグループで「ふりかえり」を書くのは日本だけ。「ふりかえり」は元々Tグループのセッションごとに書く調査票のようなものがあり、それが「その時感じた事をその後には生かせないか」という発想から今のような形の「ふりかえり」になったそうです。また、日本でのTグループは、学習者中心の教育観を大事にしているという話がありました。

☆参加者の意見交換により、「ふりかえり」も「期」によって形が微妙に違っていたりするのだと発見しました。



中村先生のミニ講座に参加して

25期 桐林真紀

前にも参加させてもらったことがある、ニンカンネットのミニ講座、“今日はどんなお話しかー”と楽しみに出かけました。懐かしい地下の3番教室に入って、その場にいらした中村先生に“お久しぶりです。お帰りなさい”とご挨拶をして、輪になった袖付イスに腰掛けました。

お話しは、この場に集まった皆さんの期待をシェアすることから始まりました。“インドの文化や生活の様子を知りたい”“他国でのTグループの様子を知りたい”“先生の顔を見に来ました”などなど、みんなの要望はさまざまでしたがそのどれもに答えるようにお話しが進みます。お話の中で印象的だったことがいくつもあります。例えばEIAHE' (イアハー) のモデルはニンカン製だったとか、他国のTグループではふりかえり用紙を書か

いとか、インドのTグループではファシリテーターがよくしゃべる(そうしないと参加者に負ける)などなど。私にとっての当たり前は、アメリカやインドでは当たり前ではないんだわ、という当たり前のことに気づかされ、いまだに体験学習やTグループとのご縁が続いている私にとって、とても興味深いお話しばかりでした。

インドのタージマハルのお写真や、米国でのTグループのメッカ、NTLの写真も見せていただきました。肩を寄せ合ってパソコン画面をみんなで覗き込んだり、先生のお話の途中に自由に質問を出したりと、終始和やかな雰囲気でお話は進み、予定の時間もあっという間に感じました。

短い時間に、留学での収穫をぎゅっと濃縮してお話ししてくださった中村先生、準備をしてくださったニンカンネットの皆様、ありがとうございました。

参加者の『ふりかえり』

- 大変充実した時を過ごすことができました。頭と心がリフレッシュできました。25年前はTグループとか、ふりかえりとかアレルギーでした。でも今、とてもすんなりお話が吸収できました。この年になったからです。でも当時あんなにたくさんのすばらしい先生方の講義を受けていたのに、ずいぶんもったいないことをしました。(8期)
- インド・アメリカのお土産話を聞くぐらいの気持ちで参加しましたが、意外にも(?) Tグループの成り立ちや南短でのTグループのやり方などのお話が興味深かったです。実際にはTグループでどんなことをしたのかは、ほとんど覚えていませんが、今さらながら“結構おもしろいことしてたんじゃない?”という気持ちになり、機会があればこれからも学んでみたいと思います。(6期)

- 初めての先生のお話をたくさん聞かせていただきました。かなた昔の卒業生です。記憶がほとんどなく恥ずかしい限りですが、楽しく、有意義な時間をありがとうございました。(1期)
- 今日は、いつもの「どっぶりニンカン」ではなかったと思います。すこし離れた? 客観的な見方の体験学習をきけてよかったです。確かに今頃になって一般化を学ぼうとしている私でした。(21期)
- 同窓の仲間たちとの集いという気安さがある、楽しく先生とおしゃべりできた気がします。やっぱりニンカンはいいなー。中村先生のお話は、参加者、私のニーズをくんでくださった内容で、興味深くきかせて頂きました。留学体験でのあれこれを、ぎゅっと濃縮して話して下さいありがとうございました。(25期)

春の講座

「感情とのつき合い方」

【講師】星野 欣生先生



日本の社会では感情を表に出すことは良い事とされない風潮があります。しかしためこむとストレスを感じたり、最後には爆発してしまうことにもなりかねません。上手に感情とつき合うにはどうしたら良いのでしょうか。

感情を表現する方法として次の3つがあげられます。

- ①直接表現：直接言葉や態度で表す方法で大声を出したり机を叩いたりする行動をいいます。この場合コミュニケーションを取るのが難しくなるため感情を伝える方法としては向かないでしょう。
- ②間接表現：第三者的に客観的な判断を入れたりして言い表す方法でいやみを言ったり遠まわしに表現したりすることです。これも何が言いたいのか相手に伝わりにくい場合が多いでしょう。
- ③直接報告(レポート)：自分の言葉と表情などで相手に今の自分の気持ちを伝える方法です。「私の気持ちは…です。」ということになります。感情がストレートに伝わりやすくお薦めの方法です。

感情を伝える際には「目でよく相手を観る」ことも必要です。「観る」ことによって相手の感情のサインに気付くことができるからです。言葉は時としてまやかしがありますが身体の表現・表情は正直なので、自分の伝えた感情によって相手がどんな感情を出しているのかを読み取り、またそれを言葉にして返してあげることでコミュニケーションがうまくいくようになります。

感情=悪いものという捉え方ではなくうまく表現しながら相手の感情も理解できたらいいですね。

【実施した実習】「無言の集団作業」—協力ゲーム—

グループに与えられた紙片を使いメンバー全員がそれぞれ同じ大きさ・形の図形を作る。その際相手に自分の紙片を渡すことはOKだが作業は全て無言で行う。その後作業中の行動、感情の動きについてわかちあう。



参加者の『ふりかえり』

- ・いろいろな条件が整って、初めて参加することができました。卒業後の年月の方が、それまでよりも上回る年齢となり、夫との関係や子どもたちの成長に伴う変化にとまどいを覚えることの多いこの頃です。もう一度、自分自身のことや、他人との関わりについてふり返るチャンスが与えられ感謝です。限られた時間内のプログラムなので、もうあと少し日常の具体的なケースに関する内容にもふれていただけると、と思いました。ですが、星野先生の講義は変わらずとてもわかりやすい内容で、充実した時間をすごすことができました。運営に関わられたスタッフの皆様、ありがとうございました。
- ・ひさびさに会う人や期をこえた上の期の世代の人ともコミュニケーションがとれてとても楽しかった。はじめは緊張していたが、とてもおちついてた。また参加したいなあ。
- ・学生時代の「ふりかえり」が思い出されました。「何を考えているのか分からない」とコメントを2名から言われ、そういえばそういわれたこともあったな!と、あの頃から成長していないことを身をもって知ることができました。また、そう言われると落ち込んでしまいますが、これも自分には意味のあることなんだと今は感じることができます。ありがとうございました。先生の講義は本当に発見!! の連続です。
- ・初めて参加しました。忘れていたニンカンの授業を思い出しました。学生時代はふまじめでしたので、卒業してからのほうがニンカンらしい生活です。ありがとうございました。

・21期のS(T).A.です。現在、作業療法士養成校にて精神科作業療法の講師として、40人の学生に講義する機会を持っています。対人スキル、感情、自己分析など、人を知る、自分を知る上で欠かせないテーマを学生にもとりあげたいと思っていました。今回学んだ実習を講義にいかせたらいいと思っています。ありがとうございました。

・「自分の感情」とつきあうのは私にとっても大切な問題だったので、タイムリーというか、ありがたい講座でした。そして、34歳(主婦)の私にとってじっとイスにすわり、人を、話をじっくりきく時間はとても貴重でした。

・やっぱり、ほっしーのお話はわかりやすく楽しいです。これからも是非ほっしー講座ひらいて下さい。心待ちしております。

・ありがとうございました。いつものことながらテーブルにつくと人関をかんじます!! あたりまえっぽいこと、何かズレをかんじること。あらためて納得できちゃったりします。何より星野先生の笑顔に会えるのが嬉しいデス。

・久しぶりに人関らしかった? 普段の人間関係(会社)の有様とギャップを感じました。

・23年ぶりに南短に来て、とてもなつかしい気分でした。学生の頃に戻ったような気がして、とても楽しいひとときがすごせました。とてもいいお話がきけてよかったです。職場の人間関係で悩むことが多く、今日の学びがいかせたら…と思いました。

秋の講座

「ウェルカム・トラブル

— 葛藤との付き合い方 —

【講師】星野 欣生先生



日常生活でトラブルはなぜ起きるのでしょうか。トラブルと関わる方法はいろいろありますが、トラブルと向き合い、勝ち負けの関係で終わることなく、「WIN-WIN（勝ちー勝ち）の関係」を作り上げるために、「コンセンサスを得る」ことが大切になります。

では「コンセンサスを得る」とはどういうことでしょうか。

「コンセンサスを得る」ためには、主張し合うだけでなくよく聴き合うこと、つまり、よく話し合い納得して解決することが必要になります。納得して解決するわけですから、決めたことに対して所有感が生まれます。つまり、「自分がこう決定したんだ」という感覚が強く持てるということです。「ゆずらされる」ではなく「ゆずる（良い意味の妥協）」こそが「WIN-WINの関係」を作り上げるもと

です。

中坊公平氏が「トラブルに向き合うことは、物事の本質や真実を知る絶好の機会であり、自分が無意識に鍛えられる。また、トラブルを乗り越えたとき、どんな困難をも物ともしない度胸が付き自信にもつながる。そう考えると、トラブルは、避けるものではなくむしろウェルカムなのだ」と言っていることはまさにその通りでしょう。

日常で、トラブルは無いにこしたことはないですが、こんな見方をすると、すいぶん楽に物事が見えてくるのではないのでしょうか。



星野先生のミニ講座に参加して

今回のミニ講座はとてもポジティブなタイトルであった。いつもながら「グループワーク」「ふりかえり」「わかちあい」と続く。同じグループには20歳以上の開きあり、立場・仕事・家庭も様々。最初にはよそ行き顔、しかし意見交換が始まり時間経過と共に「人間」っぽさが表面に出てくる。あっこれは卒業生対象の講座だったと気づかされる。なんだかかき混ぜられたグラスの中の氷のような気がした。

私は今、福祉系の仕事を少しずつ増やしてきている。対人援助と呼ばれる業務は、受容・傾聴・共感・自己覚知等求められる事が分かりかけてきた。職場での関わりで要求される事は、とても「人間」っぽいのである。家庭内でも、また最近の社会問題もコミュニケーション・想像力が求められている気がする。いつだったか星野先生が「高い授業料(?)を払ったのだから元を取らないとね」と笑顔で話してくださった事があった。葛藤の多い中年域に突入している今、懐かしい10代後半に培った「人間」という土壌が役立ってくれたらと思う。

まだミニ講座等、あまり参加されていない卒業生の方、是非氷解現象を体感しに来て下さい。そして先生方も人間魂?! を社会に広めるべくご活躍ください。(5期 西川 美貴)



今回の「葛藤とのつきあい方」というテーマに興味があり、昨年に引き続き星野先生の講座を受講しました。

私の意見が他人の「枠組み」を通ると異なる物になって伝わり、簡単に伝わるものではないというお話が一番心に残りました。

「経験者がいつも正しいとは限らない」「経験がなくても思いついて意見を言う」「妥協するのではなく納得して意思決定する」ことが大切だと改めて知りました。現実的には難しいことが多いのですが、トラブルを先送りせず、向き合う事ができたらいいなと思います。

久しぶりに実習、ふりかえりを体験して、ありのままの自分を受け入れてくれる雰囲気はニンカンにはあり、大切にされている心地よさを感じました。世代の違いを超えてさすがニンカンと思えるひと時でした。次の機会もまた是非参加したいです。

(12期 荻原 孝恵)

7月31日。突然の出来事がありました。祖母の死です。前日まで散歩にも出かけ、話しもしていただけて、まさかの事でした。そして、私以上にショックを受けたのが母です。

二人で悲しみにくれる毎日でしたが、そんな時、ニンカンのミニ講座のハガキが届き、今の沈んだ状態を変えるきっかけになればと申し込むことに。母にも話すと「私も参加した〜!」ということで、思い切ってニンカンネットの方にメールでお願いしてみると、母の参加も快く引き受けてくださって、親子で講座を受けることができました。

その日は、周りの皆さんが暖かく迎えてくださり、ニンカン初体験の母もすっかり溶け込むことができました。「大学で何しているのかと思ったら、こんなステキな授業をしていたのね。」それが母の感想です。

人との係わり合いは社会に出てからととても重要なこと、これからはミニ講座に参加して、充実した社会生活を送るきっかけにできたらと思いました。

(21期 城田 敦子)

2年半のメキシコ暮らしから日本に一時帰国していた4ヶ月の間のこと。ニンカンセンター勤務時にお世話になった小川さん(5期)にふと誘われて、星野先生の講座に初めて参加することになりました。

今まで、卒業生向けの講座に出たことのない私は、ちょっと戸惑いながらも久々の小川さん会いたさと、久々のニンカンの空気を見たさ?に。

南短に着いたはいいいけど、誰か誘ってこればよかった〜。小川さんの姿はまだ見えないし、はっきり言って心細い。ところが!ひとり、ふたり、さんにん…なんと同期の子がそれぞれ一人で参加していて、私を含め、4人もいたのです!それにまず驚いてしまいました。

星野先生の授業、受けたことあったかなあ…記憶力の悪い私はそんなことをうつろに考えながら星野先生のイントロダクションを聞いていました。グループ分けをして、いざスタート。サバイバルもの?だったので、私的には、けっこう得意分野です。

グループはホントより取り見取り違った期の先輩から後輩まで。こんなに違う年齢層でグループを持ったのは初めて!!年上の方のさりげないリード、年齢とは関係ない各々の考え方の違い…そうそう、これが体験学習。

言いたいことを言って、意見を聞いて、意思決定をしていく、そのプロセス…あっという間に〇年前の学生時代の葛藤や高揚した思いなどがからだで感じとっていました。ワークを通して、今までの自分の生きてきた在り方・対応の仕方を振り返ることになりました。その後、ベタニアでの食事会も参加させて貰って、ほんとにいろんな再会と新しい出会いがありました。

この講演会は、ニンカン生としてのいろんな思いを忘れずに振

り返ってみよう、と熱く思って活動してくれるスタッフのお蔭であり、星野先生はじめ、今までこうして講座を快く引き受け、時間を割いて提供してくれる先生方の熱い思いであり…

卒業してからもこんな講座を受けることができる、ニンカンの卒業生でよかった…。しみじみと嬉しさと、感謝の気持ちが自然と現れました。

4ヶ月しか日本に居なかったその間の、とてもとても貴重な体験となりました。星野先生、スタッフの皆さん、ありがとうございました!! (21期 坂野 恵)

ミニ講座屋食会

メリット先生が茶毘にふされる日でもありましたので、お精進のお弁当を頂きながら、短大時代の懐かしい思い出話に花が咲きました。



期を越えた温かな出会いがここでも生まれました。

大庭先生 ♥ メリット先生 からの贈り物の会

3月24日(土) 14時~
於:ベタニア

お世話係り
グラバア、川浦(人関7期)

卒業生の皆さん、如何お過ごしですか?

来たる3月24日(土)14時から、上記の会を計画しています。

場所はなつかしい南短のベタニア。3時間ほどの実習形式の会です。

メリット、大庭両先生の思い出を語るのみでなく、お二人が私たちに残して下さったものを、分かち合いの中で再確認したいと思っています。お二人から直接学ばれた方だけでなく、両先生のことをよく知りたい方は、どなたでも参加いただけます。

遠くからいらっしゃる方のために、ベタニア宿泊も用意しております。この会をキッカケに、大いに語り関わりの輪を広げていく事ができたら、それもお二人からのプレゼントですね。お待ちしております。

参加費

- A 会のみ 500円 お茶付き
- B 会と夕食 約2,000円 お弁当付き
- C 会と宿泊 約2,500円 お弁当と朝食付き

申込先

2月28日までにグラバアまで

(必ずA,B,Cの別をお知らせください)

①メール glover@nanzan-u.ac.jp

②はがき 〒466-8673

名古屋市昭和区山里町18 南山大学
心理人間学科 グラバア俊子

「ニンカン・ネット」では、旧南山短期大学人間関係科の核となっている「体験学習」及びその応用を継続学習・研究・普及しようとする人間関係科卒業生を援助します。

《奨学コース》 講座受講料の50% (限度額 5万円)、大学等への入学・編入費用のうち 5万円を補助します。

◆申し込み受付期間 第6回 (春期 4月～8月) 2007年3月末受付締め切り
(春期・秋期の年二回) 第7回 (秋期 9月～3月) 2007年8月末受付締め切り

《一般助成コース》 人間関係科卒業生を対象にした同期会一回につき 1万円を補助します。

こちらの申請は随時受け付けています。

☆申し込み方法、選考方法など詳しくはお問い合わせください。またHPでも詳細をご覧ください。

問い合わせ先 E-mail : jyosei3@ninkan-net.jp (HP内に問い合わせ用フォームがあります。)

「ニンカン・ネット」奨学助成を受けられた方々

25期 桐林 真紀 日本・精神技術研究所「アサーショントレーニング」

以前から興味を持っていた、自分も他人も尊重するやり取りの方法、「アサーション」について勉強するために、助成金を使わせていただきました。東京で行われる講座には、参加費のほかにも名古屋からの往復の交通費も宿泊費もかかって、ちょっとした出費でしたので、大変助かりました。卒業生仲間のネットワーク・雅子先生のお志にこころより感謝いたします。

20期 杉本 理恵 愛知学院大学・大学院 (心理学専攻) 入学

25期 久田 愛 南山短期大学コミュニケーション学「人間関係講座」

昨年の秋の始め、私自身がガス欠のような状態でした。そこで学生の頃過ごしたNo21教室に戻ったら、エンジンがかかるかもという期待とニンカンへの不思議な引力を感じ、人間関係講座～生き生きとした人生のために～の受講を決めました。

実習→ふりかえり→わかちあい→ジャーナル記入を懐かしく、また学生の頃とは違った角度から刺激を受ける事ができ、そっと背中を押してもらった気がします。

ニンカン・ネット
掲 示 板

◆ 講座情報 ◆

◇ニンカン・ネット企画ミニ講座◇

【日時】 2007年5月19日(土)「星野先生 ミニ講座」
※詳しくは、決まり次第ホームページに掲載します。

◇南山大学人間関係研究センター◇

2007年度トレーニングカタログのご案内
カタログの請求は、3月1日(木)から
公開講座の申込は、4月2日(月)から受付開始します。

おかげさまで、ここ数年は、申込開始日を設けなければ、新年度前に
いただくお申込で定員がいっぱいになってしまいそう！ というくらい、
公開講座の人气が高まっています。

新年度の公開講座や講演会の予定は、3月にはいとホームページ
でもご確認いただけます。

新しい講座や再登場の講座もありますよ☆

時期が来ましたら、是非一度、チェックしてみてください。

問合わせ : Tel 052-832-5002 E-Mail : ninkan-c@nanzan-u.ac.jp

ホームページ : <http://www.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/>

◆ 寄付のお願い ◆

「ニンカン・ネット」は皆さまの寄付で運営されています。常時、寄付
を受け付けています。

《振込先》

UFJ銀行 八事支店 普通 1715892 ニンカン・ネット

代表者 伊藤雅子

*名前と期(学生番号)を必ずご記入下さい。

～ご寄付をいただいた方、ありがとうございました。～

◆ Thanks! ◆

メリット先生特集ページの詩は、6期 吉田昌美さん、先生方の似顔絵
は、16期 三井由紀子さん(旧姓斎藤)にかいていただきました。また、
編集・印刷は尾頭橋印刷所にお願いました。

◆ スタッフ・記事募集します ◆

◇スタッフ◇

ニンカン・ネットは、2001年スタートから常時10人ほどの卒業生で運営
しておりますが、さらなる活動の充実のために、スタッフを急募いたします。

◆定例会 : 毎月第3土曜日、午前11時～午後1時(但し、8月・12月は休み)

◆場 所 : 南山短期大学21番教室

◆交通費 : 全額支給

◆活動内容 : 「ニンカン・ネット通信」の作成、ミニ講座の運営、助成金の管理
日時、場所の変更などがありますので、事前にお問い合わせください。
その他不明な点は、古山美保(6期 旧姓 : 木村)までご連絡ください。
TEL (052)723-3827

◇投 稿◇

次号への投稿をお待ちしています。ご自由にお書きください。

担当 : 11期 清水みどり FAX (052)781-0890

E-mail : staff3@ninkan-net.jp

◆ 編集後記 ◆

約1年3ヶ月ぶりにニンカン・ネット通信をお届けします。この通信を
通して、メリット先生から直接学ぶ機会に恵まれた方たちはもちろん、
そうでない方たちにも先生の周囲に対する深い愛情と優しい眼差し
が届きますように。また、メリット先生の思いを引き継がれた先生方
によるミニ講座は、卒業して何年(何十年?)も経つ今だからこそ得られ
るものが多々あります。今年もたくさんの方のご参加をお待ちしてい
ます。 6期 青木敦子

◆ おしらせ ◆

昨年の7月くらいから、ニンカン・ネットのHPに迷惑メール(コメント
スパム)が多数つくようになりました。
スタッフで削除していましたが管理上の負担が大きく、暫くの間コメ
ント・トラックバックを受け付けません。ご了承ください。
おたよりは今までどおり大歓迎！お待ちしております。

◆ ニンカン・ネット 問い合わせ ◆

ホームページ : <http://www.ninkan-net.jp>

E-mail : staff3@ninkan-net.jp

FAX (052)836-6543 (南翔会事務局)

